H27 年度の教員主導型 HW 融合研究の募集と支援の方針について

これまでの経緯とポイント

- H25 年度当初に融合研究推進の会などを契機として発足した約 13 件の教員主導型 HW 融合研究に対して、これまで支援が行われてきた。
- これまでの支援は主に、履修生が参加した場合の研究モデルを試行する、という意味合いが強かった。
- H27 年度は 1 期生が融合研究を実際に行う段階に突入し、教員主導型 HW 融合研究も履修生の実際の受け皿として機能する重要性が生まれてきている。
- これまで継続支援してきた教員主導型 HW 融合研究には、今年度は新たに「履修生受入」の可能性を問うことにし、HW 学位につながる成果への意識を高める。
- また今年度は新規の教員主導型 HW 融合研究を改めて募集し、より履修生の受け皿に適した研究提案が得られることを期待する。

今年度の募集の条件（案）

- 教員主導型 HW 融合研究には HW 履修生の参加が強く望まれるが、先輩による前例を作るという意味で昨年度と同様に HW 履修生以外の一般学生(今年度は D2 と D3 のみ)の参加があれば可とする。希望に応じて彼ら一般学生の技術補佐員 S としての雇用を認めるが、その財源は研究科配分枠とし、各研究科の運営委員の理解を得る必要がある。そのため、技術補佐員 S の雇用条件は他の研究科配分枠の条件に準ずる。
- また今年度は、学生不在の教員主導型 HW 融合研究提案であっても、「履修生受入」OK の意思表示がされていれば、条件を満たしていることにして、採択の対象とする。
- 採択された融合研究で「履修生受入」可となっているものは、その提案内容をパスワード付きで限定的に履修生に web 開示し、履修生の興味を喚起する。それらを D1 のプロジェクト融合研究の選択肢に加えられるようにし、最終的に融合研究の単位・成果の取りこぼしが生まれないように配慮する。

スケジュール（案）

4/3　企画運営委員会にて方針・計画の承認

4/8　3 研究科に募集案内のメール配信

4/27　募集締切

5/1　企画幹事による審査完了→採択結果の企画運営委員会による承認（メール審議）→申請者への採択結果のメール通知→採択者に対し、履修生に限定公開する研究提案の web 用素材の作成依頼（＝申請書をそのまま web 公開していいかの確認）

5/13　履修生に研究提案を web 限定公開
（→参加を希望する履修生と教員とで面談などを行い、研究のスムーズな遂行のための手順を踏む→D1 はプロジェクト研究テーマ申請書類を作成）

5/29　D1 のプロジェクト研究テーマ提出〆切

ヒューマンウエア（HW）融合研究計画書

研究課題名
申請カテゴリー ※該当する一方を選択すること。 新規申請　・　継続申請
参画研究者 ※参画する全員の氏名と所属部局・職名を記入すること。研究責任者は氏名の前に〇を付記。複数の部局から人員が参加しており、HW 履修生もしくは HW 履修生以外の D2・D3 学生が一名以上含まれることが採択の条件。但し、HW 履修生に本研究提案を提示し参加希望者の受入を認める意志があれば、現段階での学生不在は認める。参加する D2・D3 学生で技術補佐員 S としての雇用を希望する場合には下線をつけて明示すること。 〇
申請予算額 ※100 万円上限。 万　円
研究目的・内容
HW 履修生受入 ※今後、HW 履修生が参加を希望した場合の対応を選択すること。 受入可能　・　受入不可能

研究実施状況　※新規申請の場合は準備状況、継続申請の場合は進捗状況を記入のこと。
研究計画　※今年度予定している研究計画を記入のこと。
予算使用予定　※おおよその使用内訳と概算金額を記入すること。なお、技術補佐員 S の人件費は原則的に別途拠出され、本予算には計上されない。
特記事項　※研究の内容や、HW 履修生の受入方針、HW プログラムとの関係性などに関して、注釈の必要な諸般の事情や個別の対応希望があればご記入下さい。